

医

⑤

～頭を打った時の怪我、病気のおはなし～

1 脳しんとう

頭を強く打つとその前後の記憶を失ったり、一時的な意識障害が起こるがその後、数時間経つと回復し脳損傷（脳が傷つくこと）を思わせる症状がない状態をいいます。顔面が蒼白となり、呼吸のみだれ、血圧の低下、頭痛やほきけ、ふらつき、めまいなど伴うこともあります。安静にして頭を動かさずに休んでおけば、自然と良くなります。脳しんとう、そのものは治療の必要もなく、なんら心配することはありません。

2 頭蓋骨骨折

頭の骨にひびや骨折を起こすことです。単純なひびならたいした治療はありませんが、強く頭を打ったりすると稀に陥没骨折（頭の骨がへこんでしまう）・線状骨折（骨が大きく割れる）・頭蓋底骨折（目・耳・脳の神経や血管が走行している部分の骨が割れる）などにより神経・血管・脳が損傷されることがあり手術が必要になる場合もあります。

3 急性硬膜外血腫

頭の骨と脳の間には硬膜という膜が張っています。頭を強く打って骨折が起こり（ない事も、小児は骨が柔らかいので骨折を伴わないで起こることが多い）硬膜が傷つくと硬膜の外側に出

血していきます。出血が多くなり脳が強く圧迫されるようならば、緊急に手術が必要です。早期に血腫（血のかたまり）除去を行えば予後は良いでしょう。

4 脳挫傷

脳そのものの自体がつぶれてしまう状態です。ほとんどの場合は、怪我した直後から意識はありません。挫傷した脳の中に大きな脳内血腫（血のかたまり）があったり、広範囲な脳挫傷がある場合は、後遺症が残ったり、と予後は不良です。

5 急性硬膜下血腫

強い外傷を受けることにより、数時間以内に硬膜の下に出血し、骨折はあったり、なかったりで、出血が多くなると脳が強く圧迫され、生命反応を維持する中枢のある脳が障害を起こし、致命的になってしまう場合があります。また、ほとんどは、脳挫傷をともなうこともあり、手術をおこなっても、予後は良くありません。

6 急性脳内血腫

強く頭を打ち、脳内部からの出血です。脳挫傷による出血や、外傷により脳内の血管の破裂による出血などがあり、打った直後から数時間以上たつてから、血腫（血のかたまり）が形成さ

れる。ほとんどは予後は良くありません。

7 慢性硬膜下血腫

この外傷は高齢者の方に多く、軽く頭を打っただけでも、起こりやすく、打ってから1ヶ月から数ヶ月経ってから硬膜の下にゆっくりと血が溜まっていきます。手足の動きが悪くなったり、痴呆がでできたり、頭痛がおこったり、などの症状がでます。手術で血腫を除去すれば、良くなることが多く、予後は良いでしょう。再発を繰り返す場合もあります。

多くの方が頭を強く打ち、目から火花が出そうになった経験がある（筆者も先日棚で思い切り打った（笑））とおもいますが、ほとんどは、打ったところ、たんこぶ（皮下血腫）ができ、冷やしたり、なかにはそのままにしているでも大丈夫でしょう。

こういった外傷性の頭部の出血はCT検査ですぐに診断できます。小さなお子さんの場合にはぐったりとして元気がなかったり、はきけ、嘔吐（はいてしまう）がある場合は、すぐに医師に受診しましょう。

国保大正診療所

山本 洋・大川 剛史